

柳井先生の講義の思い出

時岡達志（海洋研究開発機構）

気象学についての柳井先生の講義を学部の学生として、そして修士課程の学生として聞いた。常に豊富な資料を用意され、熱心に講義された。その点で、先生の講義は他の多くの講義とは全く異なっていた。その思い出の一端をお話し、柳井先生への追悼の言葉に代えさせていただく。

私が学部の学生となった頃、東京大学の気象学教室の教授は正野重方先生であったが、長期病気療養中で大学に出てこられることはなかった。そのような時に柳井先生が助教授として着任された。1965年のことである。当初は気象研究所台風研究部を兼務しておられた。当時は、現在のコピーは高価で、通称「青焼き」と称するコピーがそれに代わるものとしてあった。先生の講義には、この青焼きの資料がふんだんに配布された。その量の多さは、他の講義における量を大きく引き離していた。教育を重視する柳井先生の考えを端的に示すものである。当時、各講座に割り当てられていた予算がいくらであった知らないが、この教材費がどの程度を占めていたのだろう。後に、何かの際に柳井先生から、Eliassen, A. and E. Kleinshmidt, Jr. (1957) の Dynamic Meteorology を参考にされて講義を組み立てられた、と伺ったが、教材の中の図には自らこの講義のために作られた図が数多くあったと思う。その一例を図1に示す。発表当日までには、少し調べ、整理して講義についてもう少し具体的にお話したい。

東大では毎年「5月祭」が開かれていた。その主役は学部4年生である。私が4年のとき5月祭に何を出展するか同僚と議論し、回転円筒水槽実験をやろう、ということになった。その動機は当然であるが柳井先生の講義で配布された資料の

図である。軸対称流になつたり波動になつたりするところを示そうということで、総勢7,8人で装置を作成した。装置をゆっくりと回転させる特殊なモーターと、回転水槽の上に固定し回転系に乗つてみた画像をとらえる小型テレビカメラは、どちらもメーカーに協力して貰い、無料で貸してもらった。当時の小型テレビカメラは発売直後のもので、現在のものよりもはるかに重量があった。5月祭当日までになんとか装置を完成させ、波動レジームと軸対称レジームの存在を確認し、無事5月祭を終えた。後日談であるが、このときに我々が無料でメーカーから貸してもらったモーターとテレビカメラを、後に柳井先生は講座の予算で購入された。誰かがきっと本格的に回転水槽実験に取り組むに違いない、と思われたのだろう。現実には柳井先生の思いは実現せず、モーターとテレビカメラは気象学教室の部屋の一角に置かれたままとなった。

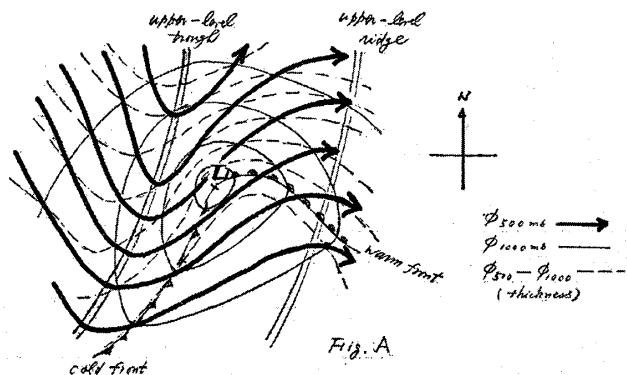


図1：中緯度低気圧の構造を説明する図。